

# ヒラリー・ハーン

ヴァイオリン・リサイタル  
アンドレアス・ヘフリガー  
ピアノ

ハーンとヘフリガーが極める、ベートーヴェンの神髄

© OJ Slaughter

**Hilary Hahn** Violin **Andreas Haefliger** Piano

ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ 第9番 イ長調 Op. 47 「クロイツェル」

ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ 第10番 ト長調 Op. 96

Beethoven: Violin Sonata No.9 in A Major Op.47 "Kreutzer"

Beethoven: Violin Sonata No.10 in G Major Op.96

2023年6/5(月) 19:00開演 (18:20開場 21:00終演予定)  
7:00 p.m., Monday, June 5, 2023 at Tokyo Opera City Concert Hall

東京オペラシティ コンサートホール

(京王新線「初台駅」東口徒歩5分)

SY13,000 AY10,000 BY7,000 C¥5,000

※料金には消費税10%が含まれております。  
※先行発売で満席となった席種は以降発売されない場合がございます。  
※学生席及び特別割引チケットについては裏面をご覧ください。

2月11日(土・祝) 前売開始 ジャパン・アーツびあ オンラインチケット 2/4(土)

お申し込み ジャパン・アーツびあ 0570-00-1212 [www.japanarts.co.jp](http://www.japanarts.co.jp)

東京オペラシティ チケットセンター 03-5353-9999 チケットびあ [t.pia.jp](http://t.pia.jp) <Pコード: 234-406>

イープラス [eplus.jp](http://eplus.jp) ローソンチケット [l-tike.com](http://l-tike.com) <Lコード: 31322>

主催：ジャパン・アーツ 協力：ユニバーサル ミュージック

© Gianmaria Gava



# ようやく聴ける、ヒラリーのベートーヴェン!

ふり返れば、ヒラリーを聴き続けてもう四半世紀にもなる。まだ鮮明に覚えている2000年秋の初来日ときのステージの姿。ヤンソンス指揮のベルリン・フィルとショスタコーヴィッチの協奏曲だった。待ちに待ったヒラリーとの出会い。当時わたしはすでに彼女の音楽に魅了されていたのだ。1999年にリリースされたジンマン指揮ボルティモア交響楽団との共演によるベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲とバーンスタインのセレナーデのカップリングCDの解説を書くにあたって、まず彼女のデビュー盤のバッハの無伴奏ソナタ第3番とバルティータ第2番、3番のディスクを改めて聴き直ししながら、20世紀のすべての巨匠たちの演奏とは別世界の音楽に感動したのを思い出す。その後、古典から現代、さらには彼女のために書かれた新作まで多くの協奏曲を聴いてきた。そのすべてが最高だった。

いつも感じる不思議なことに、ヒラリーの演奏ではどんなに超絶技巧の作品でもその演奏技巧に耳を奪われることがまったくなく、まさに響いている音そのものが形成する音楽の形、作品からのメッセージ、そして

ヒラリーが描きあげようとしている音楽を堪能できるのだ。彼女はインスタグラムやYouTube、そして多くのインタビューで「物心ついた時からベートーヴェンの音楽はよく聴いていた」と繰り返し語っている。確かに世界中の名門オーケストラと協奏曲で多く共演してきたが、ベートーヴェンのソナタの公演は殆どなかったのだ。しかし、それがようやく実現する。音楽雑誌インタビューで「ベートーヴェンの曲はいつでも演奏することができますし、明日誰かの代わりに演奏してと言われてもできるくらい、常に身近に存在しています」と語っていた。ベートーヴェン自身が初版譜タイトルに「ほとんど協奏曲のように、きわめて協奏の様式で書かれたピアノ・フォルテとオブリガート・ヴァイオリンのためのソナタ」と印刷させた《クロイツェル・ソナタ》と、それから10年近く年月を隔て、全く異なる様式によって作曲された4楽章構成の最後のヴァイオリン・ソナタをヒラリーと共演歴わずかにして最高の友人という実力派ピアニストのヘフリガー(あの名テノール歌手エルンストの息子)がどのようなセッションを繰り広げるのか楽しみだ。

平野 昭



ヒラリー・ハーン  
(ヴァイオリン)  
Hilary Hahn, Violin

© Dana van Leeuwen Decca



アンドレアス・ヘフリガー  
(ピアノ)  
Andreas Haefliger, Piano

© Gianmaria Gava

3度にわたるグラミー賞受賞ヴァイオリニストであるヒラリー・ハーンは、明快で華麗な演奏、非常に幅広いレパートリーに対する自然体の解釈、そして、ファンとの一体感ある結びつきにより、名声を博し、創造性に富む音楽作りへのアプローチと、世界中の人々と音楽的体験をシェアするための熱心な取り組みにより、多くのファンに愛されている。最近では、「100 Days of Practice」というインスタグラム・プロジェクトを立ち上げ、自身が練習している様子を撮影した動画を100日間連続で投稿した。このように舞台裏での練習をファンに公開することは、音楽の創作過程における垣根を取り払うことを目的としている。

1年のサバティカル休暇からの復帰作であると同時に、ドイツ・グラモフォンへの6年振りの新作となるアルバム「バリ」を2021年1月にリリース。彼女のために書かれたエノユハニ・ラウタヴァーラによる「2つのセレナーデ」の世界初演録音の他、エルネスト・ショーソンの「詩曲」、1923年パリで初演されたセルゲイ・プロコフィエフのヴァイオリン協奏曲の第1番を収録。最新CDは2022年「エクリプス(日食)」。

アンドレアス・ヘフリガーは、名テノール歌手 エルンスト・ヘフリガーを父にもち、スイス人音楽一家の元に生まれドイツで育った。ジュリアード音楽院に学び、1988年にニューヨークにデビューした後、欧米の主要なオーケストラと共演した。1993年にウィグモア・ホールにおいてロンドン・デビューを果たし、翌1994年にはフィルハーモニア管弦楽団と共演してプロムスに初めて出演した。ルツェルン音楽祭やザルツブルク音楽祭にもしばしば出演している。録音活動にも積極的で、モーツァルトやシューマン、ワーグナー、フランク、グバイドゥーリナ、マリナ・ピッチニーニの作品を録音している。また伴奏者としてマティアス・ゲルネとシュベルトのリートを録音したほか、室内楽奏者として、タカーチ弦楽四重奏団との共演でドヴォルジャークの《ピアノ五重奏曲》を録音した。また2020年には初のコンチェルトアルバムがリリースされ、バルトークの《ピアノ協奏曲第3番》、ラヴェルの《左手のためのピアノ協奏曲》、ディーター・アマンのピアノ協奏曲を収録している。

## 2023年 ヒラリー・ハーン その他の日本公演スケジュール

- 6/3(土) 兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール  
(問合) 芸術文化センターチケットオフィス  
0798-68-0255
- 6/4(日) 愛知県芸術劇場コンサートホール  
(問合) CBCテレビ事業部 052-241-8118
- 6/6(火) 水戸芸術館コンサートホールATM  
(問合) チケット予約センター 029-231-8000

Twitterでフォローする  
@japan\_arts

## <特別割引チケットのご案内>

(ジャパン・アーツびあコールセンター及び  
ジャパン・アーツびあオンラインチケットで受付)

- 学生席 (各ランクの半額/座席の指定が可能です)  
残席がある場合に限り、5/5(金・祝)10:00より受付を開始いたします。※社会人学生を除く公演当日25歳までの学生が対象です。当日は学生証をご提示の上、ご入場ください。(学生証がない場合、一般価格との差額を頂戴いたします。)
- シニア・チケット=65歳以上の方は、S席12,000円、A席9,000円(税込)でお求めいただけます。
- 車椅子の方は、本人と付き添いの方1名までが割引になります。(ジャパン・アーツびあコールセンターのみで受付)

## <次のことをあらかじめご承知の上、チケットをお求め下さい。>

①やむを得ない事情により、曲目・曲順等が変更になる場合がございます。②公演中止の場合を除き、お求め頂きましたチケットのキャンセル・変更等はできません。③いかなる場合も再発行できません。紛失等には十分ご注意ください。④演奏中は入場できません。⑤未就学児の同伴はご遠慮下さい。なお就学児以上の方もご入場には1人1枚チケットが必要です。⑥全指定席です。指定の座席にてご鑑賞下さい。⑦場内での写真撮影・録音・録画・携帯電話等の使用は、固くお断りいたします。⑧ネットオークションなどによるチケットの転売は、トラブルの原因になりますのでお断りいたします。⑨他のお客様のご迷惑となる場合、主催者の判断でご退場いただく場合がございます。⑩公演実施の可否は新型コロナウイルス感染状況を見極めて慎重に判断させていただきます。

# “エクリプス”(日食)の後に必ず起こる、光の復活… ヒラリー・ハーン、長期休暇後初めてのDG録音!

## Hilary Hahn ECLIPSE

### ヒラリー・ハーン エクリプス

2022年10月7日発売 MQA/UHQCD・UCCG-45062 ¥3,080(税込)

●ヴァイオリン協奏曲の王道的な作品を発表しながら、現代作品に至るまで広く取り上げる現代屈指のヴァイオリニストのヒラリー・ハーン。このアルバムは、ヴァイオリニストにとって音楽的節目となるもので、ハーンは、1年以上の休暇を経て、長年に亘って愛してきた作品を初めて録音。

●この全く異なる3つの作品は、ヴァイオリンという楽器だけでなく、それぞれの作曲家が長い間故郷を離れていたにもかかわらず、何らかの音楽的・地理的なつながりを持ち続けていたという考えによって結びついています。2019年から1年間長期休暇に入ったハーンにとって、これらの作曲家が異国の地で書いた“自分らしさ”は、自身の音楽的アイデンティティを再認識するきっかけになったといえます。

### 【収録曲】

- 1) ドヴォルジャーク: ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品53
- 2) ヒナステラ: ヴァイオリン協奏曲 作品30
- 3) サラサーテ: カルメン幻想曲 作品25

ヒラリー・ハーン(ヴァイオリン) フランクフルト放送交響楽団  
指揮: アンドレアス・オロスコ=エストラーダ

録音: 2021年4月22日-27日(1) フランクフルト、ヘッセン  
放送ゼンデザール 2021年6月17日-18日(2,3) フランクフルト、アルテオーバー (ライブ録音)

